

第4回 CCC 社会学運営委員会議事録

I. 日時：平成22年12月27日（月）午前10時30分から午後12時30分まで

II. 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：奥村委員、土屋委員、津田委員

（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

委員作成の3案の授業モデル案に関する報告とそれぞれに関する検討が行われた。

（1）委員による学士力目標1に関する授業モデル案

基礎演習ゼミでは、ミクロ、マクロそれぞれの社会的アプローチの導入となる文献を選定し、輪読を行う。また、共通のテーマのもと現場での調査を行う。この基礎演習ゼミにおいてICTを活用する。その利用法は以下の通り。

- ・ 教室と現場とを繋ぐ
- ・ ゼミ生とゼミ生とを繋ぐ
- ・ ゼミとゼミとを繋ぐ
- ・ 教室と社会とを繋ぐ →社会への発信

（2）委員による学士力目標3に関する授業モデル案

大規模授業でのICT活用について。その活用法としては以下の通り。

- ・ 資料の配付
 - ・ ビジュアル素材の活用
 - ・ 双方向性
- ① リアルタイムでのやりとり
 - ② 予習確認のためのクイズ
 - ③ 授業後の質問・コメント
- ・ 学習サポーターの活用
- ① 出席管理
 - ② バズセッションの進行
 - ③ 学生からの質問への対応

（3）委員による学士力目標5に関する授業モデル案

多様性を前提とした授業モデルの提案。自己の経験から他者の文脈へと学生の理解を拡大していくことを目指す。

- ・ 1年次

境界について考える。→包摂や排除の問題

- ・ 2年次

文脈からの理解を促す。→社会学的な文献の活用

- ・ 3年次

文脈の設定の仕方を学ぶ。→調査の立案・実施

- ・ ICTの活用について

教材アーカイブおよび成果アーカイブの作成 →自分の意見をオープンにしていくためにはICTを使ったポートフォリオが有効なのではないか。

→共時的な対話から大きなタイムスパンでの対話への移行

(4) 検討

: 4年間を通したモデルの作り方を A 委員はお話になった。B 委員は1年生のとき、C 委員は1回の授業に際しての ICT 活用で、それぞれにタイムスパンが異なる。その仕分けをはっきりさせたいので、それぞれについての考え方を提示することが必要ではないか。

: 4年間を通してのプラン、基礎から発展的な授業への道筋をつけたものを提示していただきたい。企業のグローバル化や、多様性を考慮したマネジメントに対応できる学生を育成するべく、発展的な授業をどう作り上げるのかを提案していただきたい。

: ゼミと講義とは正確が違う。講義は一方通行でやっているが、ついてきていない学生が増えているのは確か。ゼミは完全に双方向性でやっており、教員はファシリテーターに徹している。講義での双方向性は難しいし、一方向が良いと思う。

: ハーバードでも双方向型の講義の背景には、ファシリテーターによる少人数教育がある。

: ネットワークでの資料配付で予習を促進できるのではないか。

: ただ、講義について予習をしていくというイメージがもてない。予習をしてしまうと講義での驚きがなくなってしまうのではないか。

: 驚きを感じるためには、壊されるための固定概念が必要。そうした固定概念をつくるような資料を配付する方法もある。

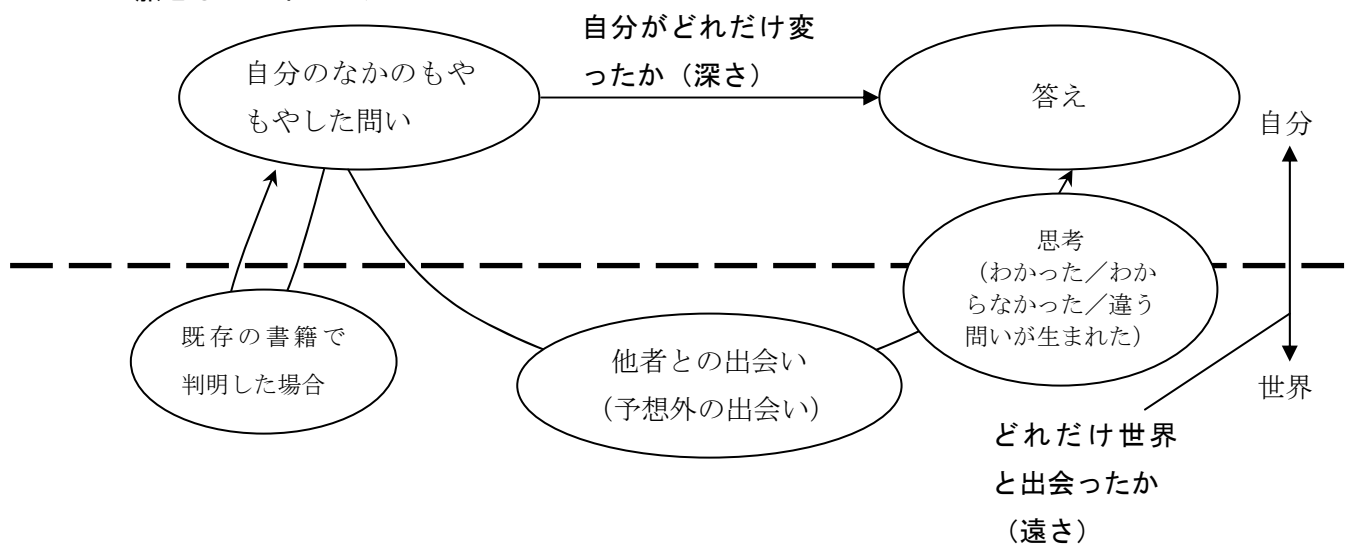
: 塗り替えるべき常識がなくなってきたとは思っている。他者との出会いをつくっていくことが必要だ。高校や大学では同じような層の人びととの出会いしかない。この出会いについては、旅というイメージで説明している。(下記)

: 深さと遠さという話が出たが、科目と到達目標によって違っているのではないか。

: 旅から戻ってきたときに市民社会のなかでどう活かすのか、というところまで行ってほしい。

：旅に出てから答えを得るまでの過程は一般化できる。次に旅に出る人のための地図として提示できるのではないか。

旅としてのイメージ



V. 次回の開催日程

日時：平成 23 年 3 月 14 日 午後 5 時から 7 時まで

II. 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室